

令和8年度 南区まちづくり推進事業 概要説明書							資料 3	
テーマ	No.	事業名	担当課	新規継続 拡充	事業概要	予算額	(参考) R7予算	
地域の魅力を活かしたまちづくり	1	デジタルでつなぐ“たからもの”活用事業	総務企画課	継続	日々の暮らしの中で気づかない「日常に埋もれた魅力」や「未来につなげたい地域のたからもの」など、市民の視点で写真としてInstagramなどのSNSに投稿し発信してもらうコンテスト企画を実施。投稿には指定のハッシュタグを付けてもらい、集まった写真を通じて、まちの魅力や新たな発見を共有・発信する。	220	1,035	
	2	地域資源活用事業	総務企画課	継続	南区の特産品や歴史・伝統文化などを活用した体験型イベントの実施により、魅力を発信して、南区の農漁業や歴史・伝統文化への認知度を高める。親子での収穫・調理体験などを通じ、食の大切さや農の役割等について学習し、食農教育を推進する。	360	360	
	3	南区ノベルティグッズ製作事業	総務企画課	継続	南区シンボルマークや南区キャラクターをあしらったノベルティグッズを製作し、南区で実施するイベント等で配布することで区民に視覚的にアピールする。	200	400	
住民、事業者、行政の協働による自主自立のまちづくり	4	美化活動啓発事業	総務企画課	継続	夏休みの課題として、小学生からごみステーションの管理やごみ問題等に関する啓発ポスター作品を募集し、優秀作品には表彰及び市ホームページ等で広報する。また、最優秀賞作品によるポスターを製作し、ごみステーション美化の啓発活動の一環として地域に配布する。	420	420	
	5	南区“いきいき”地域連携事業	総務企画課	継続	「南区を自然でつなぐ実行委員会」が主催する穴掘り大会における大会運営費の一部を区の負担金として支出するもの。市民参加型のイベントによる地域交流に加え、実行委員会内のつながりを強化することで、次世代の担い手育成につなげる。	100	200	
	6	地域コミュニティづくり支援事業	総務企画課	継続	持続可能な自主自立のまちづくり活動を推進するため、町内自治会や地域のまちづくり団体等が主体的かつ継続的に実施する地域コミュニティの活性化に向けた取り組みに対し、申請のあった事業を審査・採択のうえ、補助金を交付する。	3,441	4,041	
	7	南区まちづくり懇話会	総務企画課	継続	区民との協働によるまちづくりを推進するために、南区まちづくり懇話会を設置し、「南区のまちづくり取組方針」に基づく区の特性を生かした魅力あるまちづくりに関する事項についての幅広いご意見を伺い、区のまちづくりの取り組みに活かしていく。	302	312	
	8	クリスマスイルミネーション連携事業	富合まちセン	継続	例年開催されている富合商工会青年部主催のイルミネーションイベントと連動して、アスパル富合を装飾することで、更にイベント内容を充実させる。また、開催初日の点灯式イベントでは、多くの集客が見込まれることから、まちづくりセンターでも来場者が楽しめる企画を実施する。	700	1,200	
	9	地域とつくるまちづくりイベント事業	南部まちセン	継続	ナゾトキディスカバー(クイズラリー)を開催し、小学校区内に設置したチェックポイントにて二次元コードを読み取り、ナゾトキをしながらまち歩きを行う、クイズラリー形式のイベント。地域団体と協働し、地域や防災に関するクイズを作成し、地域愛醸成につながるきっかけづくりを行う。	190	200	
	10	わがまち未来アイデアコンテスト	南部まちセン	継続	こどもたちの地域へ対する想いや視点について作品募集を行い、次世代の担い手であるこどもたちに、自身が住むまちについて考える機会を創出する。応募作品はコンテスト形式で審査し、入賞作品は表彰式を行うとともに、冊子として地域の方へ「こどもたち目線の地域」を共有し、今後の地域活動のヒントとしてもらう。	730	966	
	11	城南地域ブランド力向上推進事業	城南まちセン	継続	若い世代のまちづくりへの参画と、地域を牽引する次世代リーダーを育成するとともに、SNSなどのあらゆる広報媒体を活用し城南町の知名度を高め、歴史・文化・食・産業など魅力ある地域資源を活用した地域活性化を図る。	1,626	2,171	
	12	地域緊急課題対応事業	総務・まちセン	継続	年度途中に突発的に発生した地域課題、地域ニーズについて、南区役所として対応できるための経費を計上する。次年度予算を編成して課題を解決するのではなく、課題が出てすぐに解決することで地域のまちづくりの機運を逃さず活動につなげることができ、自主自立のまちづくりが促進される。令和8年度は地域と事業者が協働してまちづくりに取り組めるよう、行政が主体となり両者をつなぐマッチング事業を展開していく。	3,737	2,562	

令和8年度 南区まちづくり推進事業 概要説明書							資料 3	
テーマ	No.	事業名	担当課	新規 継続 拡充	事業概要	予算額	(参考) R7予算	
住民の幸福度を高めるためのまちづくり	13	南区地域包括ケアシステム推進事業	福祉課	拡充	南区地域包括ケアシステム推進方針に基づく事業を展開する。 (1)介護予防普及啓発:南区オリジナル動画の活用による健康教育を推進、(2)-1 医療・介護・福祉分野の連携強化:高齢者入居施設等での看取り支援専門職派遣事業など、(2)-2 人生会議の普及啓発:セミナー及び第6回人生会議の日開催、(3)認知症について正しい知識の普及啓発:映画上映や展示ブースなどのイベントの開催	1,210	1,300	
	14	南区管内子育て支援ネットワーク応援事業	保健こども課	継続	各校区で子育て支援ネットワーク会の開催や、子育て支援団体等の活動を支援することで、関係者同士がつながり、子育て支援ネットワークの活性化を図る。子育て支援活動の実施により、親子が子育てを楽しむことができ、ソーシャルキャピタルの醸成につながる。	485	483	
	15	口腔ケア及び生活習慣病の予防等に関する啓発事業	保健こども課	継続	歯と口の講話等や口腔ケア体験等を実施し、区民の口腔衛生や生活習慣病に対する関心を高めるとともに、地域の企業や地域団体等及び歯科医療機関と連携し、区民の健康づくりを支援するための環境整備を図る。	1,253	1,356	
	16	eスポーツによる健康まちづくり事業	天明まちセン	継続	地域の高齢者を対象に受講者を募集し、「eスポーツ体験会」を開催する。 社会福祉協議会やささえりあとの連携を強め、地域で核となる人物の発掘を行い、eスポーツよるに新たな繋がりを構築することにより独居世帯の外出の機会をつくる。高齢者が人とつながることで孤立の解消やコミュニケーションの増加による健康増進を図る。	526	574	
	17	モルック交流会事業	天明まちセン	継続	地域公民館や小学校に出向き、高齢者及びこどもを対象に受講者を募集し「モルック体験」を開催する。高齢者とこどもがモルックを通じて交流することで、世代間の交流ができ、担い手の発掘、育成に繋げる。	142	112	
	18	鮑田カップ2026(ポッチャ大会)	鮑田まちセン	継続	地域コミュニティの活性化および生涯スポーツの普及を目的として、「ポッチャ大会」を開催する。 町内自治会、スポーツ協会、小学校、ささえりあ等、地域の多様な団体と連携しながら企画・運営を行うことで、団体間の横のつながりを強化し、地域全体の連携体制の構築につなげる。	127	180	
防災・防犯力の向上によるまちづくり	19	南区防災に強いまちづくり事業	総務企画課	継続	南区において、地域防災組織として校区防災連絡会、避難所運営委員会、自主防災クラブ、防災士会が結成されており、これらの地域防災組織が一体となり連携して活動することで、地域防災力の向上を図る。	1,220	845	
	20	南区de学ぼうさい(連携事業)	幸田まちセン	新規	令和8年度(2026年度)は、熊本地震発災から10年の節目を迎えることから、防災かるた大会や車中泊体験等を通じた防災イベントに加え、地域協働によるマルシェや食品ロス削減をテーマとしたイベントを開催することで、防災意識の向上と地域コミュニティの活性化を図る。(11月頃開催予定)	988	—	
	21	・幸田まちセン会場 ・鮑田まちセン会場	鮑田まちセン	新規	熊本地震から10年を迎える節目に、災害の記憶を風化させず、地域の防災力を高めることを目的として、子どもから大人までが楽しみながら防災を学べる体験型イベントを開催する。企画にあたっては、鮑田防災士の会をはじめとする地域団体と会議を重ね、地域の実情に即した防災プログラムを構築する。(2～3月頃開催予定)	1,623	—	
	22	南区こどもの交通安全対策事業	土木維持課	継続	南区のキャラクターを「止まれ」などの文字と一緒にプリントしたもの(グラフィックサイン)を横断歩道付近に設置し視覚的にアピールすることで、学童の交通安全の意識を高めるとともに、南区キャラクターの認知度向上を図る。また、通学路点検で地域・警察と連携しながら、横断歩道のカラー化などの対策を進め、車運転者の「歩行者優先」意識向上に努める。	200	200	
総計	22事業					19,800	—	
熊本地震10年関連事業	南区de学ぼうさい～復興10年の絆～		総務企画課	新規	熊本地震から10年が経過し、市民の災害に対する意識の風化が懸念されている。このため、熊本地震の記憶の継承を図るとともに、地域関係団体の「参画と協働」により、体験型防災イベントを開催し、市民の防災意識の向上及び地域防災力の強化を図る。従来の防災体験等に加え、保健福祉的視点を取り入れたブースを設置し、地域の多様な方々にとって、より実用的で参加しやすいイベントとする。(10月頃開催予定) また、防災バスツアーを継続事業として実施し、災害遺構等を見学し発災時の様子や痕跡当について学ぶことで、熊本地震を風化させず、市民の防災減災の意識向上につなげる。(12月頃開催予定)	2,523	—	